

昭和十八年五月二十八日

警防主務課長事務打合會ニ於ケル警保局長 訓示

17

今同茲ニ各位ノ會同ヲ煩シ、戰時下警防ノ要務ニ關シ、親シク所
懐ノ一端ヲ申述ブル機會ヲ得マシタコトハ私ノ欣快トスル所デアリ
マス。

大東亞戰爭ハ御稜威ノ下、皇軍將兵ノ勇戰奮闘ニ依リ未會有ノ大
戰果ヲ擧ゲ、開戰後僅カ一年半餘ニシテ既ニ東亞ニ於ケル米英勢力
ヲ擊滅シ、磐石ノ態勢ヲ確保スルニ至リマシタコトハ均シク感謝感
激ニ堪ヘナイ所デアリマス。敵米英兩國ハ斯カル敗戦ニモ拘ハラズ
最後ノ勝利ヲ呼號シツツ軍備ノ増強ニ狂奔シ今猶執拗ナル反攻ヲ企テ虎
視耽々トシテ帝國ノ間隙ヲ視ヒツツアリマシテ、今後帝國本土ハ間
歇的奇襲又ハ反復的空襲ヲ受クベキ公算頗ル大ナルモノ在リ、眞ニ
一刻ノ油斷モ許サレザル情勢ニアルコトヲ深ク銘記シナケレバナリ

マセシ。

斯カル重大ナル時局ニ際シ、第一線ニ在ツテ警防ノ重責ニ任ゼラルル各位ハ、今こそ渾身ノ力ヲ奮ツテ警防力ヲ最高度ニ發揮セネバナリマセシ。

警防力發揮ノ根基ハ、申ス迄モナク警防精神ノ昂揚ニアリマス。職司ヲ警防ニ奉ズル者ハ、一人々々ガ此ノ光輝アル神州ノ國土ヲ守護シ奉ル確固不拔ノ大精神ニ生キ、時局如何ニ變轉スルモ動ゼザル必勝ノ大信念ニ燃エ、一旦危急ニ際シテハ、挺身難ニ赴キ殲レテ猶已マザル氣魄ヲ堅持スルト共ニ、居常質實剛健ノ氣風ヲ養ヒ、相戒メ相正シテ嚴正ナル規律ト鞏固ナル團結ヲ保チ、又併セテ警防諸般ノ技術ニ關シテモ絶エズ工夫研鑽ヲ怠ラズ演練ヲ重ネテ指揮指導力向上

ニ努メ以テ如何ナル事態ニモ確信ヲ以テ對處シ得ル如ク心掛ケネバ
ナリマセン。

警防團ハ警察ノ中樞的補助機關トシテ、今日其ノ任務愈々重大ヲ
加ヘツツアリマスガ、一會^層之ガ充實向上ヲ圖ルコトハ各位ノ双肩ニ
懸ツテ居リマス。之ガ爲ニハ各位ニ烈々タル警防精神ガ充溢シ、警
防團トノ間ニ更ニ堅キ道義的連繫ガ作ラレルコトガ特ニ肝要デアリ
マスト共ニ、警防團ハ、
、災厄防遏ノ緊急任務ト官民ノ連鎖タル地味ナル
役割ヲ具有シテ居ルノデアリマスカラ、此ノ特質ヲ十分ニ發揚スル
機成強化ニ努メ、又克ク技術的能力ノ向上、實戰即應ノ組織ノ整
備等ニ格段ノ意ヲ用ヒネバナリマセン。

空襲其ノ他ノ非常時態下ニ於テハ、各般ノ事態ガ同時ニ惹起シ其ノ關聯スル部面ガ極メテ複雑廣汎デアリ、而モ民心ハ尖鋭化シ意想外ノ方向ニ雷同波及スル虞尠カラザルモノアルハ想像ニ難カラザル所デアリマス。斯カル際ニ於キマシテハ、往々ニシテ既定ノ警備計畫ノ遂行ヲ可能ナラシメ、不測ノ混亂ヲ招來スルコトナキヲ保シ難イノデアリマスカラ、各位ハ警備計畫ノ設定並ニ之ガ實施ノ準備ニ際リマシテハ、常ニ關係方面特ニ軍關係者ト緊密ナル連絡ヲ保持シ、非常時態下ニ於テ發生スベキ萬般ノ事項ニ涉リ綿密周到ナル研究工夫ヲ遂ゲ、事ノ大小輕重ト緩急ニ應ズル的確且迅速ナル措置ヲ講ジ置クト共ニ、適時之ニ基ク訓練ヲ重ネ以テ非常事態ニ臨ミ毫末ノ遺漏ナキヲ期セラレタイノデアリマス。

最近全國ニ亘リ家屋、山林等ノ火災頻發シ、其ノ他風、水害等依然トシテ跡ヲ斷タズ、之ニ因ル貴重ナル人的、物的被害モ亦相當大ナルモノガアリマスガ、戰時下ニ於ケル斯種災害ノ發生ハ殊ニ人心ヲ不安ニ陷ル、國力ヲ減損シ、戦力増強ヲ阻害スルコト甚ダシク、洵ニ憂慮ニ堪ヘザルトコロデアリマス。斯カル災害ノ發生ハ不可抗カノ如ク見ユルノデアリマスガ、豫メ周到ナル對策ヲ講ズルニ於テハ其ノ被害ヲ最少限履ニ留メ得ルコトハ、各種ノ實例ニ依リマシテモ明カナルトコロデアリマス。此ノ際各位ハ一般ニ對シク警防思想ノ普及ニ努メ、併セテ精密ナル豫防ノ計畫ヲ樹立スルト共ニ萬一災害發生シタル際ハ之ガ通報連絡或ハ應急復舊等ニ過誤ナキ様特ニ諸般ノ準備ヲ整ヘラレタイノデアリマス。

以上ハ現下非常時局ノ警防警察トシテ最モ喫緊ノ要務ト信ズルモ
ノニ付所懐ヲ申述ベタノデアリマス。各位ハ千載一遇ノ重大ナル時
局下警防ノ職務ヲ奉行スル無上ノ光榮ト責任ノ重大ナルヲ肝ニ銘シ
日夜怠ラズ上下相率ヒテ、警防精神ヲ彌々振起シ、奉公ノ誠ヲ竭シ
時艱ノ克服ニ身命ヲ捧ゲ以テ銃後警防ノ完璧ニ一段ト勵精アラムコ
トヲ切望スル次第デアリマス。

(終り)

指示注意事項目次

指示事項

- 一、警防活動ノ強化ニ關スル件
- 一、戦時下ニ於ケル警備實施ニ關スル件
- 一、各種災害ノ豫防ニ關スル件

注意事項

- 一、戦時災害情報ノ連絡ニ關スル件
- 一、消防自動室ポンプノ非常應援ニ關スル件
- 一、警防資材ノ配給ニ關スル件

一、戦時下ニ於ケル警備實施ニ關スル件

戦時下ニ於ケル空襲其ノ他ノ非常事態ハ關聯面ノ複雑性、異常ナル群衆刺激性其ノ他種々ナル特質ヲ具有スルモノナルヲ以テ警備計畫ノ設定竝ニ之ガ運営ノ準備ニ當リテハ克ク關係方面特ニ軍關係者ト緊密ナル連絡ヲ保持スルト共ニ絶ヘズ周到綿密ナル計畫ノ下ニ空襲即應ノ訓練ヲ重ヌル等警備實施上遺憾ナキヲ期セラレタ

或
戦時下
(七、八、七)

一、火災豫防・火災警備會の計畫・後の國民道

部(警備隊)

火災警備隊の平時使命は火災豫防に在り(警備隊)

一、火災豫防の要として、一、火災豫防隊の

入の円化を期す。(火災警備隊)

一、火災警備隊の地域指定、邊境に於ては、

火災警備隊(警備隊)

一、各種災害ノ豫防ニ關スル件

決戦下各種災害ニ因リ幾多貴重ナル人命ヲ損ジ或ハ重要物資ヲ失

有ニ歸セシメツツアリ、特ニ近時山林火災ノ頻發スルハ甚ニ遺憾

ナリ

此際特段ノ工夫努力ヲ重ネ之等災害ノ豫防並ニ被害ノ輕減ニ意ヲ

致サレタシ

一、火災警備隊出現ノ場合、警備隊司令ノ方法一致セズ不便ナリ、

警備隊司令ノ方法一致セズ不便ナリ、

一般火災ノ場合ノサイレン吹鳴カ、方法ヲ定ムル必要アリ

一、火災警備隊司令ノ方法一致セズ不便ナリ、

一、火災警備隊司令ノ方法一致セズ不便ナリ、

小務報告所改正

- 一 車報 (陸海軍各地方、人、事、物、事)
- 二 詳報

注意事項

- 一、戦時災害情報ノ連絡ニ關スル件
戦時下ニ於ケル災害ノ發生ニ際シテハ一刻モ速ニ正確ナル情報ヲ
入手スルヲ肝要トス
通信連絡ノ途絶、通信線ノ輻撃等ノ事情ヲモ考慮ノ上緊急事態下
ニ於ケル連絡確保ノ方途ニ付工夫研究ヲ遂ゲラレ各種連絡ニ遺憾
ナキヲ期セラレタシ

8-2. 6.7.205 10部印地走量
 27.271 10以上定於量

1/2 小型 17.950 12.000
 2/2 大型 15.4 10.000
 15.4 17.950 12.000
 10.000 5.000

合算 算額
 $1 - 0.7 = 0.3 \times 0.3 \sim 0.4$

100,000と 知る...
 1,200,000 知る...

1600及至-8124 274号 西20

一、警防資材ノ配給ニ關スル件

警防資材ノ整備擴充ハ益々其ノ重要性ヲ加ヘ來リ本省トシテモ銳
 意之ガ獲得配給ニ努メツアルモ各縣府縣ニ於テモ可及的既存ノ
 モノニ修理手入ヲ加ヘテ使用スル等ノ方途ヲ講ゼラルルト共ニ本
 省ヘノ所要數申請ニ際シテモ眞ニ必要ナル數量ヲ査定ノ上申請セ
 ラルル様留意セラレタシ

六庫縣
 決戰服壯，問題、觀異
 贊會，主唱、依ル。羽異贊
 會毛稍行過キ、認、修正
 方、配慮ニタリ。
 岐阜縣
 一、岐阜市名之無理ナル各務
 原工場地帯ニテモ、設備
 資材、整正備ニ付キ、其ノ慮
 也、之度云。

務
 課



18.5.28

東京女子大学

21

三十一日

裏面白紙

1. 警言複座
 一 警言報、一種二種、區別
 警言之美、如何
 二 防空服裝、程度着用
 一張、枚
 北海道廳
 防空服裝
 警言報發令中六十七
 三 着用也、東京ハ少
 シ又ルイ。
 希手+モシ、特ニ注意
 見、向子ルモ、故、藏品、活
 用等、関係ヨリ、物質、関
 係ヨリ、ハ心、配、ナシ

裏面白紙

2

229-3

兵庫縣

一、整言戒敬言教、種別、以

廢廢之、發令周知方法

等、閣下、慎重ニ考

慮、要ス。出來得、ハ

種別、廢止口ニ度シ。

大阪府

一、第一種、周知方法ニ、廿

トニ、第二種、周知方法

ニ、口頭傳達、方法、

用、ル方適有ナシ、

兵庫縣

一、決戰服社、問題、相異

賛會、主唱、依ル。羽異賛

會毛循行過キ、認、修正

方ヲ配慮ニタリ。

岐阜縣

一、岐阜市名之無理トシ、各務

原工場地帯、三千七、設備

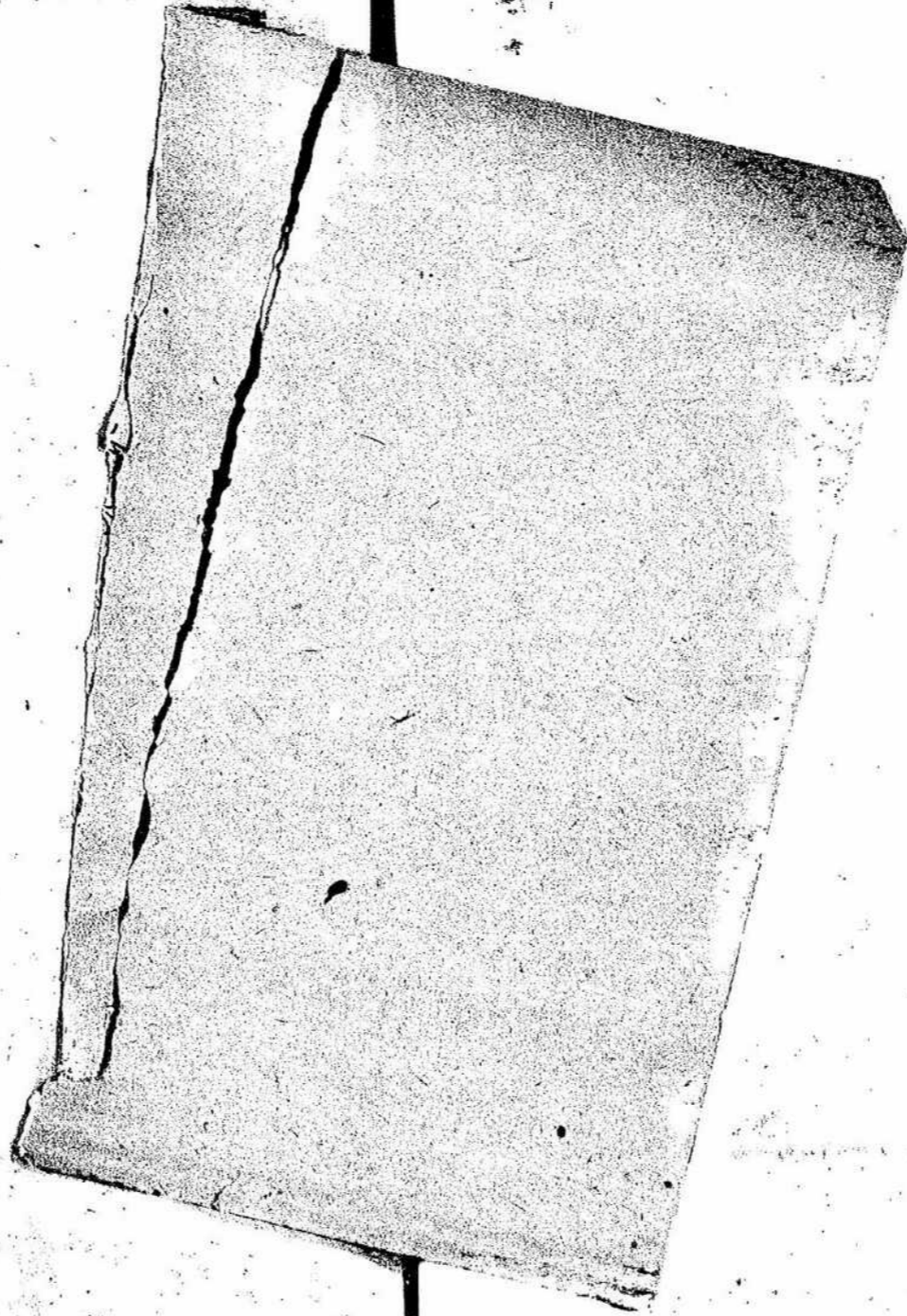
資材、整正備ニ付、考、慮、

也之、度、云。

4

3

薩摩水災ニ因ル内地沿海ニ於ケル船舶遭難概況（其ノ一）



警保局警務課

目次

一、概況	三
二、特殊事案ノ概要	三
(1) 船舶什器強奪事件	三
(2) 陸上砲撃事件	四
三、重要汽船ノ遭難概要	五
四、警察上ノ措置要領	五
(1) 連絡通報	五
(2) 應急救護	七
(3) 流着蜚語ノ取締	七
五、其ノ他	七
別冊 敵潜水艦攻撃ニ因ル内地沿海船舶遭難概表	

一、概況

大東亞戰爭勃發後昭和十七年一月七日午前九時頃靜岡縣下伊豆半島突端神子元島沖合海上ニ於テ海軍徵用船第一雲海丸（二、二二五噸）ガ敵潜水艦ヨリ魚雷攻撃ヲ受ケ沈没遭難シタル以來内地ノ太平洋ニ面スル東北、近畿、四國、九州各地方近海ニ於テ敵潜水艦ノ蠢動漸ク活潑化シツツアリ本年四月末日迄ニ於ケル船舶ノ被害中警察情報トシテ報告アリタルモノノミテモ之ヲ集計スルニ左ノ如シ（別冊概表参照）

(1) 物的被害	(イ) 沈没	四八隻	一四五、七一七噸
	(ロ) 損傷	三八隻	六七、六七一噸
	(ハ) 行衛不明		一、〇七一名
(2) 人的被害	(イ) 死者		四一三名
	(ロ) 傷者		二五八名

而シテ其ノ蠢動ノ情況ヲ見ルニ敵ハ船舶ノ大小ヲ問ハズ魚雷攻撃又ハ砲撃、機銃掃射ヲ以テ精神的攪亂ヲ狙ヒ、昨年春期（三、四

五月)ニ於テハ西南群島ヲ中心トシテ頻リニ出沒セル爲主トシテ
鹿兒島、沖繩、宮崎、高知各縣下ノ船舶遭難多ク、同年夏期(七
月乃至十月)ニハ東北地方ノ沿岸ニ移動シテ跳梁ヲ逞シクシ北海
道、青森、岩手、宮城各縣下ノ漁夫ニ對シテハ相當強度ノ恐怖心
ヲ與ヘ一時出漁ヲ見合スモノ等續出ノ傾向ヲ呈シタリ。
然ルニ同年十一月、十二月及本年一月ノ三箇月間ハ内地ノ全海域ニ
涉リ殆下其ノ蠢動ナク敵ノゲリラ戰術モ敗北シタルカニ見ベタル
モ超ヘテ本年二月宮城縣下金華山沖合ニ於ケル集團漁撈ニ從事中
ノ漁舟九隻ニ對シ銃砲擊ヲ行ヒタルヲ初メトシテ東北地方ノ沿岸
海域ニ又々頻繁ナル出沒ヲ見ルニ至リ内地及北海道ヲ襲グ輸送船
航路ヲ妨シ今日ニ至ル迄連續的ニ重要貨物船或ハ漁船ノ遭難ヲ
見ル實情ナリ
斯カル敵潜水艦蠢動ニ對スル警察上ノ措置トシテハ先ヅ現地海軍
當局ニ警備情報トシテ迅速ニ通報シ併セテ本省ニ即報セシメ本省

ハ海軍省軍務局及軍令部ニ連絡シテ重要ナル作戰資料ヲ提供シ、
次ニ罹災者ノ應急救護ノ萬全ヲ期シ流言蜚語ノ取締ヲ嚴重ニスル
等諸般ノ方策ヲ講ジ治安維持ニ遺憾ナキヲ期シツツアルモ、凡ソ
遭難場所ハ概ネ僻遠ノ地域ニシテ交通、通信極メテ不便ナル爲通
報連絡並ニ救護措置等意ノ如クナラズ現地警察當局ニ於テハ事案
ノ處理ニ付相當苦慮シ居ルヤニ見受ケラルルトコロナリ

二、特殊事案ノ概要

(1) 船舶什器強奪事件

昭和十七年五月十五日午後六時頃鹿兒島縣熊毛郡下屋久村湯泊
南東百二十週ノ海上ニ於テ漁撈中ノ漁船幸國丸三八噸(船長以
下乗組員十一名)ハ敵浮上潜水艦ヨリ停船命令ヲ受ケ停船中近
接シ來タル同潜水艦ヨリ米國兵四名移乗シ來タリ拳銃ヲ擲シツ
ツ船内ヲ搜索シ「ラジオ受信機」「蓄電池」「乾電池」「船舶
用時計」及「國旗」ヲ強奪シ更ニ無抵抗ナル船員ニ對シ停馬船

ニ移乘方ヲ命ジ空船トナシ潜水艦ニ歸艦シタル上同船ヲ砲撃セリ
シ沈没セシメテ逃走セリ

(2) 陸上砲撃事件

昭和十七年七月廿四日午後三時三十分北海道根室支廳管下擇捉
島留別灣海岸ニ對シ敵潛艦砲撃セリ
趨ヘテ同日午後七時三十分頃同島内保灣ニ陸上砲撃ヲ加ヘ來タ
ルモ被害ナシ

同日留別灣口附近ニ航行シ居リタル貨物船第二日正丸(三四噸)
噸)ハ砲撃ヲ受ケテ沈没シ乗組員中生存者ガ海上浮泳中之ニ潛
水艇ハ接近シ來タリテ機銃掃射ヲ行ヒ更ニ擲擲ノ敵將校ハ喫煙
ノ儘避難者ノ位置ヲ指シ小銃射撃ヲ爲サシメタリ

(註) 本件ハ敵ノ陸上砲撃トシテ最初ノモノナル爲一雙國民ヲ
及シタル影響極メテ大キク第八十一回帝國議會ニ於テ某代
議士ガ之ヲ取上ゲ「新カル場合島民ニ於テ對抗スル様武裝

セシメヨ」トノ意見開陳アリ之等ガ導火線トナリ

(4) 陸上砲撃ニ對スル國民ノ武裝問題(目下研究中)

(4) 陸上砲撃ニ對スル沿岸ノ特種燈火管制ノ問題(現ニ實

施中)

等々重要ナル問題ヲ派生セシメタリ

三、重要汽船ノ遭難

遭難セル船舶中ニハ相當重要ナルモノ多數アルモ就中昭和十七年
五月八日午後七時四十分頃長崎縣五島列島男島ヲ距ル南方約八十
哩ノ海上ニ於テ敵潜水艦ノ魚雷攻撃ニ依リ沈没セル大洋丸(一四
〇〇噸)ハ陸軍徵用輸送汽船ニシテ乗員一、三四〇名中當時死
者二五六名、傷者二八名行衛不明者五四名ヲ算シ南方派遣民政部
員中相當知名ノ士多數遭難死亡セルハ其ノ最モ重要ナル事案ナリ

四、警察上ノ措置要領

(1) 連絡通報

各廳府縣ハ戰時災害情報トシテ警防課ノ擔任業務トナリ夫ハ報告ノ通報シ居リタルモ其ノ要領適正ナラザル點モアリ特ニ海軍關係ヨリノ要望アリテ本年三月二日「警備情報」ノ連絡ニ關スル件」ト題シ警務課長ヨリ各廳府縣警察部長宛次ノ如キ事項ヲ示達セリ

(1) 敵潜水艦ノ襲撃其ノ他敵ノ攻撃ニ關スル事項ニ就テハ迅速ニ警保局長宛電話若ハ電信ニ依リ(警察電話並ニ一般遞信電話) 輾轉其ノ他ニテ迅速ナル連絡不可能ノ際ハ防空電話ヲ利用スルモ差支ナシ(簡明ニ即報シタル後逐次書面ヲ以テ詳報スル

コト

(2) 敵潜水艦襲撃等ノ情況ハ警保局ヨリ軍司令部、海軍省其ノ他關係各省ニ即時連絡スルヲ要シ之ガ情報連絡ハ一刻ヲ争フ要急事項ナルヲ以テ之ヲ遅延ヲ招カザル様萬全ヲ期スルコト
(3) 鎮守府、警備府並ニ軍司令部、師團等事故ノ種類ニ依ル關

係軍部ニ對スル連絡ハ之ヲ第一義トシ相互ニ連絡主任者ヲ協定シ置ク等ノ方法ニ依リ平素ヨリ萬全ヲ期スルコト

(2) 應急救護

事案發見ト共ニ警察ハ所轄ノ船舶ヲ動員シテ救護ニ出動セシムル傍警防團員ヲ召集シテ即時警備ニ從ヒ遭難者ニ對スル應急救護ノ萬全ヲ期シ現在迄ニ於テハ遺憾ノ點ナク海軍關係ヨリモ常ニ感謝セラレツツアリ

(3) 流言蜚語ノ取締

事案ハ軍事機密ニ屬スルヲ以テ機密保護ニハ十分ニ留意シ居ルモ流言ノ傳播ハ不可避ノ現象ナルヲ以テ事件發生ト同時ニ特高從事員ヲ總動員シテ之ガ取締ニ從事シ遺憾ナキヲ期シツツアリ

五、其ノ他

東北地方ニ於ケル斯種被害ハ民心ヲ痛ク刺激シ殊ニ漁船ノ相亞グ遭難ハ漁業界ニ大恐慌ヲ生ジ其ノ影響頗ル甚大ナルヲ以テ横須賀

鎮守府司令部ハ事態ヲ重大視シ東北沿岸一帯（大湊區内ヲ除テ）
ノ警備及海上防空ノ一切ヲ掌ラシムル海軍武官府ヲ新ニ岩手縣釜
石市ニ設置スルコトトシ去ル四月十日ヨリ實施ヲ見ルニ至レリ
尙漁船ニ對シテハ單獨出漁ヲ差止メ海軍艦艇護衛ノ下、集團漁撈
ニ從事セシメツツアルヲ以テ青森、岩手、宮城各縣ニ於テハ本年
三月以來其ノ遭難殆ド跡ヲ絶チ漁撈成績亦遂次向上シツツアル情
勢ナリ



(別冊)
昭和十八年五月一日作成

敵潜水艦襲撃ニ因ル内地沿海船舶遭難概表

警保局警務課

敵潜水艦攻撃三國內地沿海船遭難概表（昭和十八年五月日）

傷者	死者	不明	沈没		船名
			隻数	噸数	
					一月
					二月
					三月
					四月
					五月
					六月
			2	4	七月
14	28				八月
5	2		0	1	九月
15	7		5	1	十月
					十一月
			5		十二月
					一月
					二月
3	1				三月
2					四月
39	38		9	9	計

昭和十八年 中

船		船		船		船		船		船		船	
死者	不明	死者	不明	死者	不明	死者	不明	死者	不明	死者	不明	死者	不明
14	28												
5	2												
15	7	32											
		49											
3	1	6											
2		1											
39	38	88											

昭和十八年五月廿五日
 昭和十八年一月十二月一月二月三月四月計

敵潜水機攻撃被害者及被害船舶調査報告書（昭和十八年五月廿五日）

裏面白紙

城			沈	雙	縣名	府	沈	不	雙	年
傷者	死者	木行明衛								
										昭
										和
										十
										七
10		1	800	1						年
			5700	3						
			0743	3						
13	1	21								
										中
			0000	1						昭
			231.00	1						和
3	12		26765	1						十
										八
										年
26	13	22	97808	10						計

城		宮		手		岩		縣名	沈	不	噸	雙	年		
傷	死	傷	損	沈	沈	傷	損							沒	沈
傷者	死者	木行 明衛	噸數	隻數	噸數	隻數	傷者	死者	不明	行衛	噸數	隻數	噸數	隻數	別
															一月
															二月
															三月
															四月
															五月
															六月
															七月
10		1			360000	1			5		504000	1	800	1	八月
			5470	1			9	9	19				1125700	3	九月
13	1	21	3546	1	667300	1	7		57				1350743	3	十月
															十一月
															十二月
									60				500000	1	一月
3	12		22495	9									193400	1	二月
							7						226765	1	三月
											308200	1			四月
26	13	22	31511	11	1027300	2	23	9	141		912200	2	3397808	10	計

昭和十七年
昭和十八年

裏面白紙

傷者	東京		復致	月別	年別
	死者	不明			
2	2	31		一月	七 年 中 昭 和 十 八 年
				二月	
				三月	
				四月	
				五月	
				六月	
				七月	
				八月	
				九月	
				十月	
				十一月	
				十二月	
2	2	31	2	計	

傷者	死者	不明	行徳	不徳	沈	復救	損	復救	沈	復救		
2	2	31		7589	1							
							676	1				
2	2	31		7589	1	2	6	2	14810	2	4122	2
						2	6	2	5486	3	4122	2

一月
 二月
 三月
 四月
 五月
 六月
 七月
 八月
 九月
 十月
 十一月
 十二月
 計

七年 中
 昭和十八年

裏面白紙

府
別
月年
別

沈	沈	沈
傷者	死者	不明
12	4	
162	22	1
		計

昭 和 十 七 年 中 昭 和 十 八 年
 一 月 二 月 三 月 四 月 五 月 六 月 七 月 八 月 九 月 十 月 十 一 月 十 二 月 一 月 二 月 三 月 四 月



重						三						静					
傷者	死者	不明	行	傷	死	傷者	死者	不明	行	傷	死	傷者	死者	不明	行	傷	死
噸數	噸數	噸數	噸數	噸數	噸數	噸數	噸數	噸數	噸數	噸數	噸數	噸數	噸數	噸數	噸數	噸數	噸數
																	222,500 /
12																	5,644,000 /
12																	222,500 /

昭 和 十 七 年 中
 一 月 二 月 三 月 四 月 五 月 六 月 七 月 八 月 九 月 十 月 十 一 月 十 二 月 二 月 三 月 四 月
 計

裏面白紙

年別	沈	不明	死者	府名	
				沈	不明
一月					
二月					
三月					
四月					
五月			2	1	
六月					
七月					
八月				300	1
九月					
十月				000	1
十一月					
十二月					
一月					
二月					
三月					
四月					
計			2	700	3

昭和十七年中 昭和十八年

和						山						別	年	
死	不	行	傷	損	沈	死	不	行	傷	損	沈			別
2	2		5100	1		6	1	2	682700	2			一月	昭
									455000	1	456100	1	二月	和
									100700	1			三月	十
													四月	七
											578300	1	五月	年
													六月	中
													七月	
											186000	1	八月	
													九月	
													十月	
													十一月	
													十二月	
													一月	
													二月	
													三月	
													四月	
2	2		5100	1		1	40	1537700	4	1220700	3		計	

裏面白紙

年	府洗			別
	多	不願	別	
行衛	不明	死者	計	別
一月				
二月				
三月				
四月				
五月			000	/
六月			000	/
七月			782	/
八月				
九月				
十月				
十一月				
十二月				
一月				
二月				
三月				
四月				
計	7	11	582	3

昭和十七年中 昭和十八年

傷		死		沈		年別
傷者	死者	不明	行衛	頭數	隻數	
				300	1	一月
						二月
						三月
						四月
48	2	40		300	2	五月
						六月
						七月
						八月
						九月
						十月
1						十一月
						十二月
						昭和十八年
				300	1	一月
						二月
						三月
						四月
49	2	40		300	4	計

府沈
名不
沈
別

年別

昭和十七年中 昭和十八年

總		傷		損		沖		鳥		兒		鹿		年 別
傷者	死者	不明	行衛	噸數	隻數	噸數	隻數	傷者	死者	不明	噸數	隻數	噸數	
										22			1243.00	1
48	2	40		800000	1	90200	1	3	4		1400	1		
								5	19		5000	3	76.00	2
1				10200	1									
								5			不詳	1		
										3	320000	1	280000	1
49	2	40		210200	2	90200	1	13	23	25	326400	6	4119.00	4
														計

昭和十七年中
一月二月三月四月五月六月七月八月九月十月十一月十二月
昭和十八年
一月二月三月四月

裏面白紙

洗	隻数	麻洗 不洗 取別	年別
			昭和十七年
		一月	
		二月	
		三月	
		四月	
		五月	
		六月	
		七月	
		八月	
		九月	
		十月	
		十一月	
		十二月	
		一月	昭和十八年
		二月	
		三月	
		四月	
		計	

00 /
00 /
00 6
09 2
84 5
00 5
00 5
03 10
00 /
00 /
00 /
65 4
22 6
13 48

昭和十七年
昭和十八年

計		損		洗		年別
傷者	死者	回数	回数	回数	回数	
				222500	1	一月
		22		129300	1	二月
5			584400	3		三月
99	287	294	1265300	6	1954200	6
2	2	54	400000	1	335389	2
4	4	44			255434	5
32	28	6	442400	2	1167200	5
25	12	15	5570	1	1858000	5
49	55	152	4222	2	4319103	10
1			10200	1		
		49	1020057	2	510000	1
5	08	60	不 昨	1	500000	1
3	12		22495	9	193600	1
18	8	12	1571492	5	1441465	4
14	8	59	1034473	5	1289222	6
258	443	771	6267109	38	14571713	48
						計

昭和十七年
一月
二月
三月
四月
五月
六月
七月
八月
九月
十月
十一月
十二月
一月
二月
三月
四月

裏面白紙



昭和十八年五月二十七日

内務省 警保局長

各府縣 長官 殿（除東京府）

青年學校其ノ他地方團體等ニ於ケル竹槍等
使用ニ關スル件

最近青年學校其ノ他ノ地方團體ニ在リテハ軍事訓練上乃至ハ國土防衛
上等ノ理由ニ基キ之ガ訓練ニ際シ武器代用トシテ竹槍ヲ使用セントス
ルモノ漸次増加スルノ傾向有之ヤノ趣ニ候處右ハ戰時下警察上慎重ニ
取扱フノ要アリ且民心ニ及ボス影響モ妙カラザルニ鑑ミ現今之ガ措置
ニ關シテハ憲兵其ノ他軍關係トモ緊密ニ連絡シ備ネ左記ニ依リ取扱相

成度

追而本件ニ付テハ陸海軍省ト協議済ニ有之爲念

記

一、青年學校兵ノ他各道團體等ニ於テ軍事教練ノ爲銃剣代用トシテ竹槍ヲ使用シ教練場兵ノ他適當ノ場所ニ於テ突撃等ノ演練ヲ行フハ支障ナキモ之ガ爲警察上ノ事故ヲ招來セシメザル様之ガ使用殊ニ保管方法等ニ付當該責任者ニ於テ嚴ニ監督統制ヲ加フル様指導スルコト

二、各道團體又ハ一國民ガ敵ノ落下傘部隊又ハ上陸部隊ノ攻堅ニ備フル理由ヲ以テ之ニ關スル特別組織ヲ編成シ竹槍ヲ製作シテ之ヲ所持使用セントスルハ離島其ノ他沿岸等ニシテ敵ノ上陸等ノ虞大ナル地域ヲ除ク外ハ却ツテ人心不安ヲ誘發シ警察上ノ事故ヲ惹起スル虞アルヲ以テ敷カル計畫ニ付テハ懸念ノ上其ノ實行ヲ差控ヘシムルコト但シ竹槍ニ非ズシテ銃ノ類ヲ體育器械等ノ具ニ供シ一般士氣ノ鼓舞

ヲ兼テ演練ニ使用スルハ支障ナシ

三、離島其ノ他沿岸等ニシテ敵ノ上陸等ノ虞大ナル地域ニ於テ戰況ノ推移ニ依リ特ニ竹槍其ノ他ヲ以テ其ノ地ノ諸團體又ハ住民ニ對シ特ニ訓練セシムル必要アリト思料セラルル旨關係軍司令官ヨリ其ノ地域ノ通告アリタルトキハ軍防衛ト則應セシムルタメ關係軍司令官及警察府司令長官又ハ警備府司令長官ト協議ノ上之ガ訓練指導ノ要綱ヲ定メ内務大臣ノ認可受クルコト

(主として地方官に依りて)

一、國土防衛ハ軍ノ任スヘキモノニシテ部外國體等ヲシテ之ニ當ラシムルハ本旨ニアラス但シ特種ノ地域ニシテ防衛上之ヲ要スル場合ニ於テハ軍司令官ハ關係鎮守府又ハ警備府司令長官ニ協働シ陸軍大臣ノ認可ヲ受ク差當リ其人地在郷軍人會ヲシテ防衛ニ協力セシムルコトヲ得

在郷軍人前項防衛ニ協力シ爲ニ死歿又ハ傷痕ヲ受ケタルトキノ身分取扱ニ關シテハ別途諮議ス

二、敵ノ上陸等ニ際シ部外國體、一般住民等ガ國土防衛ノ精神ニ基キ斷乎トシテ自衛ノ處置ニ出ツルハ當然ノ行爲トス故ニ離島其ノ他沿岸等ニシテ敵ノ上陸等ノ虞大ナル地域ニ在リテハ地方長官其ノ他關係機關協力指導ノ下郷土侵犯ノ敵ニ對スル自衛抵抗、絶

警ニ對スル掩護、老幼ノ避難其ノ他敵ノ自由ナル行動ヲ困難ナラシムル處置等所要ノ事項ヲ組織的ニ訓練シ置クヲ適當トス
イ 前項ノ地域ハ軍ノ行フ防衛ニ即應セシムル爲軍司令官關係鎮守府又ハ警備府司令長官ニ協議ノ上陸軍大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ地方長官其ノ他關係機關ニ通告ス
三、前各號ノ部外國體、一般住民等ニ對シテハ軍ヨリ兵器ヲ供セサルヲ本則トス

防 空 局

警防主務課長會議指示事項 一一八五七七

一 防空計畫ニ關スル件

一 昭和十八年度防空豫算ニ關スル件

一 昭和十八年度教育訓練ニ關スル件

一時局防空必携ノ改正ニ關スル件

一公共待避壕ノ整備ニ關スル件

一 防空設備資材之整備ニ關スル件

一 工場防空ノ強化ニ關スル件

一 港灣防空ノ強化ニ關スル件



内務省發給第二三號

昭和十八年三月二十三日

内務省防務局長

各省警務局長

各省府廳長官 殿

昭和十八年警察講習會訓練施行ニ關スル件

本日、昭和十八年度警察講習會訓練ノ施行ヲ命ゼラレ候ニ付テハ之ガ
施行ニ當リテハ夏ニ左記諸點ニ留意ノ上之ガ成果ヲ檢湯スル如ク該講習
ノ留意相煩度依命及道條候

記

第一方針

本年度ニ於ケル教育訓練ニ付テハ重要地及重要施設ノ不敗ノ防空態勢ヲ完成スルヲ主眼トシ個別的奇襲ニ對處スル如ク之ヲ施行スルニ止ラズ重要地ニ於テハ更ニ遠シテ相當大規模ノ反復的訓練ニ耐ヘ得ル如ク萬全ノ指導ヲ行フノ要務ニ大ナルモノアリト認メラルルヲ以テ教育訓練ノ各處ニ亘リ此ノ方針ヲ徹底浸透シ特ニ指揮指揮者及基幹要員ノ養成ニ努ムルコト

第二施行地域

一 本年度ニ於テモ施行地域ニ付テハ重點主義ヲ採ル方針ヲ持續シ重要地及重要施設ニ從ヒ指導力ヲ集中シテ指導上遺憾ナキヲ期スルハ勿論同一場市内ニ於テモ地域又ハ施設ノ重要度ヲ考慮シテ教育訓練ヲ施行スルコト
二 施行地域ノ選擇ニ付テハ必ズシモ行政區劃ニ依ルコトナク都市ノ區域外ト雖モ其ノ都市ニ近接シテ之ト一體ヲ形成シ居ルモノハ其

ノ都市ニ包含セシメ一方都市内ト雖モ比較的人家分散シ又ハ重要施設ナキ地域ハ之ヲ除外スル等其ノ實態ニ重點ヲ置キ決定スルコト

第三施行要領

- 一 教育訓練ノ進行ニ當リテハ特ニ改正「時局防空必携」ヲ普及徹底ニ努ムルト共ニ各防空業務ニ付テハ概ネ左ニ主眼點ヲ置クコト
 - (一) 防火、消防
 - (1) 各種ノ專應ニ應ズル消防官署、警防團（水上警防團ヲ含ム以下同ジ）等防空機關ノ出動、配備
 - (2) 既定計畫ニ依ル防空重要都市ニ對スル消防ポンプノ非常應援
 - (3) 各種焼夷彈等ニ大型焼夷彈ノ性能ニ應ズル防火、消防
 - (4) 爆彈、焼夷彈ノ濫用投下ニ應ズル防火、消防
 - (5) 家庭、隣保班、時局警防團各相互間ノ應援並ニ隣保班、特設防護團下警防團、消防官署トノ連絡
 - (6) 水道、道路等ノ破壊、消防自動車ノ破壊等ニ應ズル防火、消

防

(1) 港灣施設及船舶ニ對スル防火、消防

(2) 防火、消防ノ教育訓練ニ併行シテ必ず大型燒夷彈防火ニ必ス
ナル標準防火用水ノ整備ノ促進

特甲及甲ノ地域ニ在リテハ前各號ノ事項ノ外反復的空氣ニ應ズ
ル防火、消防、水道、遺障等ノ廣汎且大ナル破壊ニ應ズル防火、
消防、大火災ニ對スル消防、破壞消防等ニ關スル教育訓練ヲ併
セ施行スルコト

日救護

(1) 防空警報ニ應ズル救護機關ノ出動、配置

(2) 死傷者ノ捜索及救出

(3) 負傷者ノ種類及程度ノ判定並ニ其ノ程度ニ則テ應ズル救急處置
特ニ大出血、骨折、火傷ニ對スル救急處置

(4) 負傷者ノ搬送

(5) 藥品、衛生材料ノ配給

(6) 救護所ニ於ケル負傷者ノ取扱

(7) 水道、瓦斯、電氣等ノ供給杜絶ニ應ズル救護措置

(8) 救護ノ教育訓練ト併行シテ遠ニ救護所ノ指定及之ガ一般ヘノ周
知徹底

特甲及甲ノ地域ニ在リテハ特ニ多數ノ負傷者ヲ齒ジタル場合及
反復的空氣ニ應ズル救護ノ教育訓練ヲ施行スルコト

日待避

(1) 待避所ノ設置要領

(2) 防護監視要領

(3) 防護監視員ト其ノ他ノ防空従事者等トノ有機的連絡及待避ノ
要領

(4) 避難通行者等ノ待避及車輛ノ待避

(5) 待避所ノ設置ヲ指定セラレタル地域又ハ施設ニ於テハ待避ノ

教育訓練、併行シ待避所、整備

四 緊急避難

特甲及甲ノ特定地域ニ限リ消防等ノ訓練ニ關聯シ訓練ヲ行フコト

(イ) 避難者ノ誘導又ハ輸送

(ロ) 避難所ノ準備及避難者ニ對スル食糧其ノ他ノ物資ノ配給

(ハ) 交通ノ統制

五 緊急復舊

(イ) 特設工作班へノ連絡及特設工作班ノ非常動員

(ロ) 警防團ト特設工作班トノ共同動作

(ハ) 緊急復舊資材ノ選搬

(ニ) 同一被害現場ニ二以上ノ要緊急復舊施設アル場合ノ着手ノ順序及工作統制ノ要領

特甲及甲ノ地域ニ在リテハ特ニ廣汎且大ナル破壊及反復的空襲

ニ應ズル緊急復舊ノ教育訓練ヲ施行スルコト

六 防 毒

(イ) 防毒面ノ装着及保存方法ノ教育

(ロ) 簡易ナル瓦斯防護要領ノ教育

ニ各防空業務毎ニ教育訓練ノ到達目標ヲ必ず算定スルコトトシ右到達目標ヲ關係指導幹部ニ徹底セシメ之ガ實現ニ努ムルコト

ニ小地域(十乃至二十隣組又ハ數工場等)毎ニ有能ナル防空指導ノ

適任者ヲ委嘱シ防空當局ノ指示ヲ受ケ常時防空指導ノ補助ニ當ラ

シムルコト

第四 教 育

一 中央ニ於ケル防空講習會ニ付テハ別ニ之ヲ定ム

ニ地方防空學校及市町防空講習所ハ必ず實地教育ヲ爲シ得ル如ク施設シ且成ルベク専任職員ヲ配置スルコト

ニ地方防空學校ニ於テハ概ネ防空指導ニ從事スル警察消防官吏、市

町村吏員、警防團幹部、特設防護團幹部、學校報國隊幹部及第三

町村吏員、警防團幹部、特設防護團幹部、學校報國隊幹部及第三

ノ三ニ揚グル防空指導者ヲ教育スルコト

四市町防空講習所ニ於テハ概ネ一般警防團員、隣保班長、一般防空
従事者ヲ教育スルコト

五地方防空講習會ニ於ケル教育ニ付テハ概ネ前二號ニ準ズルコト

六防空主務者以外ノ縣府縣又ハ市町村ノ官吏吏員ト雖モ防空業務ニ
關係アル者ニ對シテハ所要ノ教育ヲ施行スルコト

七一般防空従事者ニ對シテハ第四號ニ依リ教育ヲ行フ外既ニ教育ヲ
終了セル指導者ヲシテ現地ニ付教育セシムルコト

八教育ハ時局ニ鑑ミ要綱第三ニ掲グル主學科目ノミニ限定シ軍事的
ニ防空、戰能ノ向上ヲ圖ルコト

九一回當リ教育スベキ人員ハ實地教育ヲ徹底セシメ學ル限度ニ止ム
ルト共ニ異リタル地位又ハ任務ヲ有スル者ヲ同時ニ教育スルトキ
ハ勢ヒ抽象ニ情シ不徹底トナル虞アルニ付之ヲ避クルコト

一〇地方防空學校ニ於テハ成ルベク被教育者ヲ合宿セシメ嚴格ナル紀

律ノ下ニ全國ナル防空精神ヲ涵養シ防空業務ニ習熟セシムルコト

一一教育施行ニ先チ教育方針及教育内容ニ付關係職員及講師ニ於テ打
合ヲ遂ゲ相互ノ間ニ齟齬矛盾ナキ豫備置スルコト

一二教育ノ效果ヲ舉グル爲教育資料ノ配付、修了證書ノ交付又ハ試験
ノ施行、賞品ノ授與等適當ナル方途ヲ講ズルコト

第五訓 練

一訓練ハ特ニ要綱第一ノ方針ノ趣旨ニ從ヒ反復的空襲ノ際ニ於ケル
アラユル狀況ヲ想定シテ之ヲ行フコト

二訓練事項ハ要綱第三ノ一ニ掲グル事項ニ限定スルコト

三狀況現示ノ適否ハ訓練ノ成果ニ至大ナル關係アルニ鑑ミ專門ノ狀
況現示班ヲ編成スルカ又ハ警防團員、隣保班長等ニ對シ狀況現示
ヲ教育シタル上指導スルコトトシ道路廣場等ニ於ケル非實戰的訓

練ヲ排除スル機轉ニ留意スルコト

四港灣、船舶、瓦斯、電氣、水道、運糧、交通等ニ關スル訓練ハ是

等所在地域ニ於ケル本訓練ト同時ニ施行スルヲ妨ゲザルニ其ノ重要ナルニ鑑ミ指導ノ徹底ヲ期スル爲成ルベク別個ニ訓練ヲ行フコト

其訓練施行ニ當リテハ現場ニ於ケル指揮指導ニ留意シ訓練ニ因ル故ノ停止ニ努ムルコト

第六其ノ他

一教育訓練ノ施行地域ハ其間第二ニ掲グル地域ニ限ルコトトセラルモ其ノ他ノ地域ニシテ純農山漁村等ヲ除ク人家相當濃密セル地域ニ於テハ必要ニ依リ今秋迄ニ一ニ二回程度ノ防火、消防及待避ノ訓練ヲ行フヲ妨ゲザルコト
前項ノ訓練ハ地元警察署ニ於テ之ヲ指導スルコトトシ重要地域ニ於テハ消防隊力ノ強化ヲ來サザル如ク留意スルコト
尙然一項ノ地域ニ於テハ消防隊等ノ出動一機一式、出初式一機一隊等ノ機會ニハ努メテ防空上ノ指導ヲ併セ行ヒ防空能力ノ向上ヲ期スルコト

上ヲ圖ル如ク留意スルコト

ニ等甲、甲、乙及丙ニ掲グル地域内ニ於ケル教育訓練ノ計畫ノ大綱ハ防空局ト豫メ打合セノ上決定スルコト、尙教育訓練ノ計畫ヲ設定シタルトキハ防空局ニ報告シ併セテ關係軍司令官及近接廳府縣ニ通報スルコト

三教育訓練ノ施行ニ當リテハ全体ノ計畫ヲ完成ヲ俟テ着手スルガ如キコトヲ避ケ重要ナルモノ又ハ基本的ナルモノヨリ直ニ着手施行スルコト

四教育訓練施行ノ成果及其ノ適否ニ關スル意見ハ其ノ都府廳防空局ニ報告スルコト



昭和十八年度防空教育訓練要綱

第一方 針

本年度ニ於テハ調歌的奇襲ヲ豫期スベキハ勿論重要地ニ對シテハ中期以降ニ於テ相當大ナル機數ヲ以テスル反復的奇襲ヲ受クル公算大ナルモノアリト認メスルヲ以テ之ニ對シテ戰爭遂行上特ニ重要ナル軍需生産ノ維持及重要機關施設ノ防護ヲ主眼トシ常ニ果敢鞏強ナル防空精神ヲ振起シ防空機關及防空設備資料ノ機能ヲ最高度ニ發揮シ得ル如ク眞ニ實踐的ナル教育訓練ヲ重點的ニ施行スルモノトス特ニ重要地及重要施設ニ於テハ必ズ本年度中ニ不敗ノ防空態勢ヲ完成スル如ク教育訓練ヲ精勵ヲ期スルモノトス

第二 施行地域

一 陸空監視及之ニ伴フ通信ニ關スル訓練ハ全國ニ亘リ之ヲ施行ス
海上船舶及漁船ニ對スル警備傳達ノ訓練ハ關係地區ニ於テ之ヲ施行

ス

前項以外ノ教育訓練ヲ施行スル地域並ニ其ノ重要度ノ順位左ノ如シ

特甲 東京市、立川市、横濱市、川崎市、横須賀市、川口市

甲 大阪市、堺市、神戸市、尼崎市、西宮市、佐世保市、名古屋

市、吳市、下關市、門司市、小倉市、戸畑市、八幡市、若松

市、福岡市

乙

室蘭市、小樽市、京都市、東舞鶴市、舞鶴市、長崎市、太田

町、宇治山田市、清水市、濱松市、岐阜市、大湊町、廣島市、

丙

札幌市、函館市、稚内町、新潟市、日上市、仙台市、鹽釜市、

丁

郡山市、富山市
其他ノ防空上ノ指定市町村及重要施設ノ所在地

第三 施行要領

一 教育訓練ヲ施行スベキ地域並ニ防空業務ハ概テ左ノ通トス

(一) 特甲及甲ノ地域

防火、消防、救護、待避、緊急避難及緊急復舊

(二) 乙及丙ノ地域

防火、消防、救護、待避及緊急復舊

(三) 丁ノ地域

防火、消防及救護 但シ重要施設ノ所在地ニ於テハ以上ノ外緊急

復舊

但シ市民用防毒面ノ配給ヲ指定セラレタル市ノ地域

防 毒 (一) 防 毒 (二) ミ

因燈火管制ニ付テハ必要ト認ムル地域ニ於テ教育ノミヲ施行シ訓練

ハ原則トシテ之ヲ行ハズ 但シ他ノ業務ノ訓練ノ目的ヲ達成スル

爲ニ必要ナル限度ニ於テ行フヲ妨グズ

ニ特甲及甲ノ地域ハ其ノ國家的重要施設ニ照シ之ニ對スル空襲ノ規模及

被害ノ程度、影響モ自ラ其ノ他ノ地域ト異リ大ナルモノアルベキヲ以テ

當該地ニ於テハ特ニ此ノ點ニ留意シテ教育訓練ヲ施行スルモ、ト

ス
三 教育訓練ヲ施行スル防空業務ニ付テハ施行地域ノ現狀ヲ檢討シ其ノ
欠陥ヲ急進ニ是正スル如ク留意シ特ニ各業務毎ニ教育訓練施行ノ主
眼點並ニ到達目標ヲ明示シ年度内ニ必ズ之ヲ達成シ得ル如ク努ムル
モノトス

四 教育訓練ノ施行ニ當リテハ信ニ關從報應ナル防空精神ノ涵養強化ニ
努ムルモノトス

五 教育訓練トシテ形式的ニ區分スルコトヲ避ケ兩者ヲ必ズ一貫連續ア
ラシメ相互ニ其ノ長所ヲ發揮シ欠陥ヲ補正スル如ク努ムルハ勿論
教育訓練ノ所望機關ノ強化、防空資料ノ整備トヲ相互ニ即應シシメテ
教育訓練ヲ實スルニ伴ヒ防空ノ實際上ノ整備ガ必ズ向上進展スル如
ク留意スルモノトス

六 重要都市ニ於ケル教育又ハ軍兵地區及重要施設ニ對スル訓練ニ付テ

ハ何レモ現地ノ指導機關ノミニ一任スルコトナク必ズ廳府縣ニ於テ
積極的ニ指導ヲ加ヘ教育訓練ノ成果ノ最揚ニ努ムルモノトス

第四 教 育

一 教育施設

(一) 中 央

內務省及內務省防空研究所ノ主催ヲ以テ防空講習會ヲ開催ス

(二) 地 方

イ、第二ノニニ揚グル特甲申乙及丙ノ各都市ニシテ恒久的教育施設
設ナキ向ニ付テハ大日本防空協會ヲシテ當該廳府縣、市町ト
協力シ本年度内ニ原則トシテ廳府縣ニ地方防空學校ヲ、市町
ニ防空講習所ヲ設置セシム

ロ、第二ノニニ揚グル丁ノ地域ニシテ地方防空學校又ハ市町村防
空講習所ノ設置ナキモノニ付テハ大日本防空協會ヲシテ關係
廳府縣又ハ市町村ト協力シ防空講習會ヲ開催セシム

ニ 施行要領

(一) 教育ハ一年ヲ通ジ之ヲ行フモノトス 但シ主要ナル幹部ニ對スル教育ハ成ルベク八月末迄ニ一應完了スル如ク計畫スルモノトス

(二) 地方ニ於ケル教育ハ主トシテ警察消防官吏、市町村吏員、警防團員、特設防護團幹部、學校報國隊幹部、隣保班長其ノ他防空業務ニ關スル指導者ニ對シ施行シ其ノ能力ノ向上ヲ期スルモノトス

(三) 一般防空從事者ニ對シテハ前項ノ教育ニ引續キ又ハ前項ノ教育ヲ受ケタル者ニ依リ教育ヲ施行スルモノトス

(四) 防空教育ハ主要ナル幹部ヨリ始メテ逐次其ノ他ノ者ニ及ボシ或ハ特ニ重要ナル地域ノ者ヲ先ニシ其ノ他ノ地域ノ者ヲ後ニスル等合理的ニ施行スル如ク留意スルモノトス

(五) 教育施行ニ當リテハ抽象的理論ノ教育ヲ廢シ努メテ具體的ニ且必ズ實地教育ヲ併セ施行シ直ニ之ヲ現地ノ實情ニ即應シテ活用シ得ラルル如ク留意スルモノトス

因教育施行ニ當リテハ個一的ニ情スルヲ避ケ被教育者ノ任務及智能ノ程度等ニ應ズル如ク教育期間及教育内容ヲ考慮スルモノトス

第五 訓練

施行要領

訓練期間

訓練ハ一年ヲ通ジ之ヲ行フモ左ノ區分ニ依ル

第一期 自四月一日起至六月一

先ツ警防團、特設防護團、學校報國隊、隣保班等各防空團體ノ幹部ノ基礎訓練特ニ團體員ニ對スル教育方法ノ教育ヲ行ヒ指揮指導能力ノ向上ヲ圖リタル上逐次各防空團體ノ基礎訓練ヲ徹底的ニ施行スルモノトス

第二期 自七月一日起至九月一

各施行地區毎ニ小區域ヨリ逐次範圍ヲ廣ムル如ク綜合訓練ヲ施行スルト共ニ各防空團體ノ幹部ニ對シテハ圖上及實地訓練

ヲ以テ反復練習スルモノトス
第三期（自十月）及第四期（自一月）
至十二月）至三月）

補備訓練ヲ施行スルト共ニ更ニ反復練習スルモノトス
前項各期ヲ通シ時々豫告ナキ突戰的訓練ヲ合シ施行スルモノトス

（四）訓練日数及訓練地

訓練日数及訓練地ハ訓練施行地ノ防空能力ノ現狀ニ即シ適宜
警察廳ニ於テ決定スルモノトス

前項ノ決定ニ當リテハ漫然ト長期ニ亘リ訓練ヲ反復スルコトヲ選
ケ擔當力ニ應ズル細密ナル計畫ヲ樹立シ最モ效果ヲ擧グル如ク努
ムルモノトス

（五）訓練ハ防空活動困難ナル夜間、拂曉等ヲ重視シテ施行スルモノトス

（四）訓練ニ際シテハ努メテ現實ノ空襲下ノ實況ニ即スル狀況ノ下ニ活
動シ得ル如ク狀況現示ノ方法ノ研究工夫ヲ爲スモノトス

（四）從前々訓練ノ成果ニ鑑ミ最モ不備欠陥アル事項、地域又ハ團體ニ
重點ヲ置キ防空態勢ニ間隙ナカラシムル如ク考慮スルモノトス
（六）訓練施行ニ當リテハ豫メ防空機關及防空設備資材ノ整備狀況ヲ點
檢シ尙訓練施行中ニ於テモ不備欠陥ヲ認メタルトキハ現場ニ於テ
之ヲ修正セシムルモノトス

第六 其ノ他

- 一 防空監視及之ニ伴フ通信ノ訓練ニ付テハ別ニ定ムル計畫ニ依リ之ヲ
施行スルモノトス
- 二 廳府縣等部ハ教育訓練施行ノ成果ニ付努メテ査閱ヲ施行シ不備欠陥
ヲ是正スルモノトス
- 三 各廳府縣ニ於テハ關係官公衙ト協議シ綜合的ナル防空ノ實施ニ備フ
ル爲適切ナル教育訓練ノ計畫ヲ樹立シ之ヲ施行スルモノトス

防 空 局

審防室務課長會議注意事項 (一八五七七)

一 防空監視隊ニ關スル件

一 警報傳達ニ關スル件

一 準備管制ノ強化ニ關スル件

一 對潜水艦警戒ノ爲ノ光ノ秘匿ニ關スル件

一 救護ニ關スル件

一 大日本青少年國員ノ防空教育訓練ニ關スル件

極秘

港灣行政ノ綜合運管體制確立ニ關スル願望措置ノ件
一八三一一 要旨
閣議決定

第一 方針

重要軍需物資ノ生産擴充ノ爲港灣運管力ヲ増強シ特ニ滯貨ノ根絶ヲ圖ルコト最喫緊ノ要務ナルニ顧ミ差當リ左ノ要領ニ依リ地方重要港灣ニ於ケル責任分界ノ紛淆及行政分立ノ弊ヲ矯メ地方長官ヲ中心トシテ之ガ綜合的運管ヲ圖ラントス

第二 要領

- 一 鐵鋼、石炭、輕金屬、船舶及航空機等重要軍需物資ノ生産擴充及主要食糧ニ關シ必要アルトキハ地方長官ハ政府ノ旨ヲ承ケ稅關長、海務局長、鐵道局長、内務省土不出張所長、工務官、勞務官、石炭調整官及陸海軍工場管理官ニ對シ港灣運管力ノ増強並ニ港灣防空ニ付必要ナル指示ヲ爲スコトヲ得ルモノトスルコト
- 二 兩項ノ指示ハ内閣總理大臣ノ指定スル港灣ニ付且必要ナル事態

ニ於テ之ヲ行フコトヲ得ルモノトスルコト

三 第一項ノ地方長官ノ指示ハ所管長官ノ訓令ニ基クモノトスルコト

四 本件指示ト相俟ツテ地方長官主宰ノ下ニ機關並ニ海軍局並等前記各機關ハ隨時緊密ニ連絡ヲ行ヒ綜合的且臨力の措置ノ迅速的確ヲ期スルコト

五 前石ト共ニ現制港灣衙役増強連絡委員會ノ全幅活用ヲ圖リ右種重責行上ノ成果ヲ擧グルニ努ムルコト

六 本件ニ依リ指示スベキ重要施策ノ方針及指示ニ付必要ナル主要事項ハ内閣總理大臣ヨリ豫メ地方長官ニ承達スルモノトスルコト

七 地方長官ヲ中心トシテ綜合調整スベキ主要ナル事項ハ概ネ左ノ如キモノトスルコト

(一) 現在ノ海務局及税關所管事務中港灣輸送力ノ増強ニ關スル事項(法令及手續ノ簡素化ヲ含ム)

(四) 官公民有ノモノヲ通ジ岸壁、棧橋、臨港倉庫、上屋、衙役機械、臨港鐵道、小運送施設、貯其ノ他港灣輸送施設等ノ綜合的運営ニ關スル事項

(イ) 港灣ニ於ケル海陸衙役作業及勞務ニ關スル事項

(ニ) 港灣ニ於ケル土木事業其ノ他港灣施設ノ築造ニ關スル事項

(三) 臨港地帯ニ於ケル工業生産ト其ノ輸送トノ綜合運送ノ保持ニ關スル事項

(五) 港灣防空ノ綜合統制ニ關スル事項



神戸港防空連絡協議會規約

第一條 本協議會ハ神戸港防空ニ關シ關係各縣間ノ連絡ヲ緊密ニシ其
 補修事項ヲ協議シ以テ神戸港防空ノ完璧ヲ期スルコトヲ目的トス

第二條 本協議會ハ左ノ官公署ヲ以テ組織スルモノトス

- 神戸 在 勸業 車 武 官 府
- 船 舶 檢 査 司 令 部 神 戶 支 部
- 大 阪 兵 站 郵 神 戶 出 張 所
- 兵 庫 縣 廳
- 内 務 省 土 木 出 張 所
- 關 係 會 察 消 防 署
- 神 戶 海 務 局
- 神 戶 稅 關
- 大 阪 鐵 道 局
- 神 戶 市 役 所

和 田 岬 燈 臺

第三條 關係各處ニ夫々連絡責任者及補佐員ヲ置クモノトス

第四條 本協議會ハ必要ニ應ジ神戸港ニ於ケル港灣關係者ノ出席ヲ求
メ意見ヲ徵スルコトアルモノトス

第五條 本協議會ハ必要ニ應ジ臨時開會スルモノトス

神 戸 港 警 防 規 約

第一條 本規約ハ大東亞戰爭ニ際シ神戸港内ノ警防ニ就キ關係官公署
神戸水上警防團及關係各部ノ業務ノ分擔並ニ統制ニ關スルコトヲ規
定ス。但シ官廳自體ノ防空ハ之ヲ除外ス

第二條 兵庫縣知事ハ本警防業務全般ニ就キ統制ノ責ニ任ズルモノト
ス

第三條 神戸港警防業務實施ノ爲左ノ五部ヲ置ク

一 統 制 部

二 港 務 部

三 警 防 部

四 工 作 部

五 救 恤 部

第四條 各部ノ編制及業務ノ分擔左ノ通りトス

部別	主務	關係官公署	連絡責任者	援助員
税制部	各部ノ連絡及税制ニ任	關係各官公署 防空主務者	兵庫縣警察部長 神戸市港局長	神戸水上警防團
港務部	一 警報ノ傳達 二 船舶ノ安全検開及欲 害船舶ノ保護 三 航路ノ臨港施設及荷 役ノ統制 四 港内見張及通信連絡	神戸海務局 神戸税關 神戸水上警察署 神戸港都局	神戸港長	神戸水上警防團 關係各會社組合
消防部	一 警報ノ傳達 二 港内及水上官署區域 ノ巡邏警戒 三 燈火管制ノ指導監督 四 港内諸物件ノ水消防 五 防毒、救護、救進	關係警察消防署 神戸市税關 神戸市海務局 神戸市港都局	神戸水上警察署長	神戸水上警防團 水難救濟會

救恤部	工作部	内務省	内務省	神戸水上警防團
一 糧食若収容所及救護 所ノ準備開設 二 港内船舶ノ防毒及救 護 三 負傷者、被毒者ノ手 當 救護運搬ノ援助 四 救護員其ノ設備場作 業員ニ對スル糧食ノ 配給 五 傷災者ノ整理、療養 糧食其ノ患所醫物資 ノ配給	一 港灣施設ノ慮念、防 護 二 港内施設ノ復舊整理 三 沈船身ノ他物件ノ引 揚、除去、運搬、廢 棄 四 破損物件ノ危険表示 及消滅並ニ浚深	神戸市税關 神戸市海務局 神戸市港都局 神戸市水道局 神戸市港都局 神戸市港都局	内務省 土木出張所 工 隊部 長	神戸水上警防團 水難救濟會 關係會社及組合
		神戸市港都局 神戸市港都局 神戸市港都局 神戸市港都局 神戸市港都局	神戸市防衛局長	神戸水上警防團 水難救濟會 關係各會社及組合

第七條 關係官公署ヲシテ神戸水上警防團又ハ其ノ他援助員ノ出動ヲ必要トスル場合ニハ神戸水上警察署長又ハ統制部連絡責任者ニ要求スルモノトス

第八條 關係各部ハ本規約ニ依リ各所掌事項ニ就キ夫々部署、配置、其ノ他必要ナル具體的計畫ヲ定メ相互通報スルト共ニ有事ニ際シ遺憾ナキヲ期スルモノトス

第九條 本規約ハ訓練ノ場合ニ之ヲ準用ス

大日本青少年團員防空教育訓練ニ關スル件

一 大日本青少年團男女青年團員中現ニ防空監視隊、警防團、特設防護團等ノ防空團體ニ所屬スル者ハ空襲時ニ於テハ必ず當該團體員トシテ活動スルト共ニ各團體ニ屬セザル者ハ原則トシテ家庭隣組ニ在リテ其ノ防空力ノ強化ニ當ルコトトシテ大日本青少年團ニハ特別ノ防空組織ヲ設置セザルコト

ニ 男女青年團ニ於テハ關係防空機關トシテ協議ニ基キ必要ナル防空業務ニ付前記各團體ノ團體員トシテ或ハ家庭隣組員トシテ最モ効果的ナル活動ヲ行ヒ得ル如ク平時ノ教育訓練ニ主力ヲ注グコト

三 前號ノ教育訓練ハ全國一律ニ行フ必要ナキヲ以テ都市ニ重點ヲ置キ之ヲ行フコト

大日本帝國政府

以上ノ趣旨ニ反セザル限度ニ於テ特殊ノ防空業務ニ付團體活動ヲ行フヘ支障無キモ（例ヘバ女子青年團員ノ救護活動等）此ノ場合ト雖モ獨自ノ行動ヲ避ケ、關係防空機關ノ要請ニ依リテノモ出動シ且之ガ指揮ノ下ニ防空活動ヲ行フコト

警視廳ヲ都ノ機構中ニ統合スルハ適當ナラズ

帝都行政機構一元化ノ觀點ヨリ警視廳ノ都ヘノ機構統合ノ問題ハ今次防空機構調整ノ場合ニ於テモ一應考慮セラレタル所ナリ。而シテ之ヲ統合シタル場合形式的ニ機構ハ完全ニ一元化シ從來都廳相互間ノ關連多カリシ行政事務ヲ一層圓滑ナラシメ就中經濟統制事務、交通行政、建築行政等ハ著シク強化徹底ヲ期シ得ルモノアルベキハ否ムベカラザル所トス。

然レドモ續テ之ヲ見ルニ帝都警察ハ地方警察ニ比シ幾多特異ナルモノアリ、警察制度創建ノ時代ヨリ數十年ニ亘リ警察ハ獨立ノ機構トシテ今日ニ至レルモノニシテ、今遽ニ之ヲ都ノ機構中ニ統合